

調べる力、伝える力の育成「学習発表会」

校長 渡辺 基博

冷たい北風が、校庭を吹きぬける季節となってきました。早いもので今日から師走。一年のしめくくりとなる月になりました。学校でもこの一年間を振り返るとともに、来年度に向けて、見通しをもち計画的に取り組んでいけるよう、学習や生活で身に付けておくべきことを整理していきたいと考えております。



さて、先日の学習発表会では、多くの方にお越しいただき、ありがとうございました。新型コロナウイルスの感染者数はかなり減少していた中ですが、感染再拡大を予防する意味からも、昨年度に引き続き、制限を設けての発表会にさせていただきました。保護者の皆様方に、ご理解、ご協力をいただきながら開催できたこと、改めてお礼申し上げます。1・2年生は「生活科」、3～6年生は「総合的な学習の時間」で取り組んだ内容を発表しましたが、3年生以上は、学習指導要領でも重要視されている、国語や社会科など他教科と関連付ける「横断的な学習」となるよう、テーマや内容を工夫してまいりました。また、今年度は導入されたギガタブを活用した学年が多く、調べた資料を添付し、参加した人たちにもよくわかるプレゼンテーションを作ったり、発表者の言葉に合わせ個々のタブレットPCから音楽や映像を流し、グループで協力して一つの発表を完成させたりと、情報教育で学んだことを生かした発表が多く見られました。当日は、これまでの成果をお客さんに伝えようと一生懸命に発表している姿を、どのクラスでも見る事ができました。子供たちは、課題に沿った調べ学習、発表原稿作りなど「学習発表会」に向け、努力や工夫を重ねてきました。その過程の中で、成長や自信につながる糧を得ることができたと思っています。引き続き、生きる力につながる学びを推進して参りますので、ご協力よろしくお願いたします。

パラアスリートの高田晃一さんが来校されました

11月2日(火)、シドニーパラリンピック4×100mリレー銀メダリストの高田晃一さんをお招きし、「メダルより大切なこと～ImpossibleからI'm possible!～」という演題で講演をしていただきました。「十字架を正面から見れば+だが、真上から見ると-、角度を変えて見ると×になる。同じ出来事でも見方を変えれば、たし算にもひき算にも、かけ算にもなる。」など、具体的な例を挙げながら、メダルよりも大切な「感謝の思い」、「あきなめない心」「工夫することで乗り越えられる力」についてお話いただきました。また、講演後はアジア大会やパラリンピックで獲得したメダルや今回のパラリンピック聖火ランナーのトーチを子供たち全員が触られる機会を設けていただいたり、短距離走や走幅跳のデモンストラーションを見せていただけたりしました。子供たちにとって、心に残る貴重な経験になってもらえれば嬉しいです。

